

これが新しい社会貢献の形。長崎県CSR通信 vol.21

CSRとは「企業の社会的責任」のことで、消費者が企業を選ぶ基準の1つです。

長崎・佐世保玉屋で、障害者が作った作品の展示即売会を開催

障害のある方にとって、施設で作っている陶器や縫製品などの作品を多くの方々にご覧いただく機会は、何より嬉しいとのこと。

今年で35回目を迎える「**長崎県障害者作品展**」が、**佐世保玉屋**(佐世保市栄町)では1月31日(土)～2月3日(火)に、**長崎玉屋**(長崎市新大工町)では2月7日(土)～10日(火)に、それぞれ開催されます。

今回はこの作品展を主催する、**長崎県社会福祉協議会**(長崎市茂里町)施設団体課**杉町課長**にお話しをうかがいました。

- 「長崎県障害者作品展」は、どんな催しですか？

杉町さん「障害のある方々が作っている作品を、多くの方にご覧いただく催しです。ご来場いただいた方には障害者に対する理解を深めていただける機会となり、また、障害者にとっては、社会に参加しているという意識を持つことで『自立しよう!』という意欲が増すきっかけになると考えています。」

- どんな作品がありますか？

杉町さん「1万点を超える絵画や手芸品、陶磁器、お菓子などがあります。エプロンなどの縫製品は『かわいい!』、木工品は『子供の知育に良さそう』などの理由で人気がありますね。」

- 手作りの良さが伝わってきそうですね。

杉町さん「作品を見た方が『障害者が作ったの?』と驚かれることもあるほど、優れた作品ばかりです。気に入った作品は購入することもできますが、**まずは手にとって、見ていただくと嬉しいです。**」



去年は、長崎・佐世保合わせて3,400名以上の方がご来場されました。

施設への発注をご検討の方へ**法人税の優遇措置**のご案内

障害者施設等に発注した額に応じ**固定資産を割増して償却する優遇措置**の事例をご紹介します。詳しくは、<http://www.pref.nagasaki.jp/kurashi/pdf/zeiseikaisei.pdf>

企業

障害者が働く授産施設等

仕事の発注
物品の購入



この企業の20年度の所得金額(利益): **600万円**
20年度の減価償却資産取得
・車1台(400万円・耐用年数4年)
定額法による1年当たりの減価償却費: **100万円**

600万円(所得金額) - 100万円(減価償却費)
← **- 30万円(施設への発注額; この分が前倒し)**
= 470万円(課税標準額)

この企業が障害者施設へ発注した金額
・平成19年度: 0円
・平成20年度: **30万円(割増償却額)**

法人税額は、470万円×30%(仮の税率) = 141万円
償却額を前倒して計上する分、翌年度以降の減価償却費は減少します。

企業と障害者の連携事例紹介紙「**長崎県CSR通信**」 発行部数: 2150部

発行 長崎県障害福祉課(担当: 村井) 平成21年1月30日(毎週金曜発行) 電話 **095-895-2454**

バックナンバーはこちら <http://www.pref.nagasaki.jp/syogai/koutin/CSR.html>

CSR通信をご覧いただいている坪内製パン(五島市)の坪内様から、楽しみに読んでいただいているとのお手紙をいただきました。少しでもお役に立てれば幸いです。今後ともよろしく申し上げます!

これが新しい社会貢献の形。長崎県CSR通信 vol.22

CSRとは「企業の社会的責任」のことで、消費者が企業を選ぶ基準の1つです。

知的障害者施設の手づくり豆腐を、無農薬野菜を推進する店が販売

最近、食に対する関心が非常に高くなっています。無農薬野菜の普及を推進する**大地といのちの会**と**佐世保玉屋**(佐世保市栄町)が共同で運営する**ベジライフ**(玉屋斜め前)というお店では、契約農家の商品と並んで、知的障害者通所授産施設**麦わら帽子**(佐世保市上本山町)の豆腐を販売しています。

今回は、大地といのちの会の**武内恒夫**事務局長と、麦わら帽子の**村吉慶三**理事長にお話をうかがいました。

- 無農薬野菜を取り扱っていらっしゃるんですね。

武内さん「当店の無農薬野菜は、他とはちょっと違います。虫が食べる野菜は美味しいという話がありますが、実は不健康な野菜の出すガスに集まるんですよ。私達は、土を元気にすることで、虫が来ない元気な野菜作りに取り組んでいます。」

- 麦わら帽子さんの豆腐を取り扱っている理由は？

武内さん「**国産大豆にこだわっている**点を始め、我々の方針と同じだったからです。一生懸命、勉強されてますよ。」

- 無農薬野菜への消費者の関心は？

武内さん「昨年11月に長崎市で開催したイベント「食育祭」に2300人もの方に集まっていただきました。草の根的活動が広がっていると、手応えを感じています。」

- 中国産野菜などの影響があるのでしょうか。

武内さん「間違いなくあります。また、**地産地消にこだわる**ことが、**地域の活性化にもつながる**んです。「5円安いから」とスーパーで買うと、佐世保がさびれてしまいます。」

- 活動の輪が、もっと広がるといいですね。

武内さん「毎食のことなので、食べ物にはもっと敏感になって欲しい。楽しみながら、普及活動を続けていきます。」

企業側



豆腐はもちろん、豆乳ババロアや豆腐団子など、おいしくて、健康にもいい！

村吉さん「当店では、**施設側**豆腐や豆乳が主力商品ですが、女性には、**豆乳生チョコ**などの**スイーツ**も人気があります。」

最近、大地といのちの会の**吉田俊道**代表と協力して、「**大地っ粉**」(だいちっこ)という無農薬野菜の粉末を開発しました。

一説では、生野菜を普通に噛んだ程度では、成分の50分の1も吸収できないようですが、「大地っ粉」は20種以上の根菜類を、皮や芯など、まるごと粉にしているから、赤ちゃんからお年寄りまで手軽にご使用いただけます。

豆腐と同じ位、支持されるようになれば嬉しいですね。」

施設への発注をご検討の方へ**法人税の優遇措置**のご案内

障害者施設との取引額に応じ**法人税等の優遇措置**があります。詳しくは、<http://www.pref.nagasaki.jp/kurashi/pdf/zeiseikaisei.pdf>

障害者施設が販売する**商品・サービス**はこんなにあります。詳しくは、<http://www.pref.nagasaki.jp/syogai/koutin/list.pdf>

【今週の**社会貢献事例**】

知的障害者の施設で作った豆腐を、佐世保市中心部の店舗で販売している。

障害者が作った商品を購入してみたいはかが？

企業と障害者の連携事例紹介紙「**長崎県CSR通信**」 発行部数:2137部

発行 長崎県障害福祉課(担当:村井) 平成21年2月6日(毎週金曜発行) 電話**095-895-2454**

バックナンバーはこちら <http://www.pref.nagasaki.jp/syogai/koutin/CSR.html>

今回の取材で「大地といのちの会」の吉田俊道代表のファンの多さにビックリ！純粋な姿勢に共感する方が多いようです。私も無農薬野菜について感化されたので、いつか講演を聴きに行きたいと思います！

これが新しい社会貢献の形。長崎県CSR通信 vol.23

CSRとは「企業の社会的責任」のことで、消費者が企業を選ぶ基準の1つです。

長崎純心大学の卒業アルバムを、障害者の施設が制作

ほとんどの学校では、卒業の思い出に卒業アルバムを作っていると思いますが、**長崎純心大学**(長崎市三ツ山町)現代福祉学科を今春卒業予定の皆さんは、障害福祉サービス事業所の**ほほえみの家**(長与町高田郷)に卒業アルバムの制作をお願いしているそうです。

今回は、アルバム制作メンバーの純心大学現代福祉学科4年生の**林田彩**さんと、ほほえみの家の**田中聖**施設長にインタビューしました。

- 取り引きにいたった経緯は？

田中さん「林田さんが、卒論のための調査のことで当施設を訪問をされた時、うちで印刷ができることをお伝えしたら、『是非作りたい!』となったんです。彼女がリーダー的な存在だったので、トントン拍子で話が進みました。」

- 施設では、どんな作業をするんですか？

田中さん「学生さんからデザインの要望を聞いて、ページのデザイン編集をします。各ゼミから『クレヨンタッチにして』等細かい指示があり、写真のデータがデジカメやCDなどバラバラで、編集は意外と大変でしたが(笑)。」

- 編集作業は、障害のある方がされるんですか？

田中さん「そうです。イラストレーター が得意な方がいるんです。この方は、**町民を対象にイラストレーターの講習会も実施**するほどなんですよ。」

- 価格設定はどうされたんですか？

田中さん「施設を利用する障害のある方の勉強も兼ねて、と考えているので、できるだけ価格は抑えました。企業で同じことをすれば、2~3倍はかかるのではないのでしょうか？」

- 今後の方針を教えてください。

田中さん「当施設では、ゴミ袋作りや、企業の下請け作業もしていますが、印刷業務はもっと伸ばしたいですね。」

施設側



アルバムは、学生のセンスが反映され、ゼミごとに雰囲気は全く違います。

発注側

林田さん「卒業アルバムは、個人情報保護の関係で、学生主体で作っています。

施設がどれくらいできるかわからなかったのが、10以上のゼミの要望を、無謀なものも含め(苦笑)全て伝えたので、施設の方は大変だったと思います。

でも、要望を反映してくださったおかげで、校正を見たメンバーは、『かわいい!』『仕上がりが楽しみ!』と、みんな喜んでいました。いい思い出になりそうです。」

施設への発注をご検討の方へ**法人税の優遇措置**のご案内

障害者施設との取引額に応じ**法人税等の優遇措置**があります。詳しくは、<http://www.pref.nagasaki.jp/kurashi/pdf/zeiseikaisei.pdf>

障害者施設が販売する**商品・サービス**はこんなにあります。詳しくは、<http://www.pref.nagasaki.jp/syogai/koutin/list.pdf>

【今週の**社会貢献事例**】

障害者の施設で、大学の卒業アルバムを制作している。

アルバムやパンフレット、ポスターなどの印刷物を施設に発注してみたいはかが？

企業と障害者の連携事例紹介紙「**長崎県CSR通信**」 発行部数:2133部

発行 長崎県障害福祉課(担当:村井) 平成21年2月13日(毎週金曜発行) 電話**095-895-2454**

バックナンバーはこちら <http://www.pref.nagasaki.jp/syogai/koutin/CSR.html>

アルバム原稿を見せていただきましたが、ページごとに雰囲気が全く違って、若い方のセンスの良さとそれを形にした施設の方のスキルにビックリ。能力は、障害の有無とは関係ないことを痛感しました。

これが新しい社会貢献の形。長崎県CSR通信 vol.24

CSRとは「企業の社会的責任」のことで、消費者が企業を選ぶ基準の1つです。

マクドナルドで、障害者がハンバーガーを作る体験実習会を実施

平成20年12月期の中間決算で、3年連続増収増益を達成した日本マクドナルド。そのマクドナルドを長崎県内に14店舗展開されているエス・ケイ・フーズ(長崎市家野町)さまと、**障害者就業・生活支援センターながさき**(長崎市賑町)の共催で、就職を希望する8名の障害者と、障害者の就労移行を支援する事業所の職員の方が、実際にハンバーガーを作ってみる体験実習会が、マクドナルド時津店で開催されました。今回はご協力いただいたエス・ケイ・フーズの**中村こずえ**取締役にお話を伺いました。

- なぜ、今回、障害者の「体験実習会」を開催されたんですか？

中村さん「就職を考えている障害者の皆さんに、ハンバーガーやポテトを実際に作ってもらい、仕事の大切さを学んで欲しかったこと、障害者の就職活動の支援をされる職員の方にも、紹介する仕事内容を知ってもらいたかったことが、大きな理由です。」

- 貴社では、障害者雇用にも取り組んでいらっしゃるんですね。

中村さん「今では6名の知的障害者を雇用していますが、最初は大変でした。当初、雇用していた知的障害のあるスタッフは、よだれがひどく、主に清掃などを任せていたんです。それが数年経って、ミートを焼けるまでになり、『**時間はかかるけどできるんだ!**』ということを学べたのが大きかったですね。

これをきっかけに、『**トライアル雇用**』(3ヶ月間の試行雇用)を活用して、知的障害者の雇用に積極的に挑戦してみようと考え始めました。」

- 『トライアル雇用』の成果はどうでしたか？

中村さん「実際に雇ってみると、3ヶ月間で結構できるようになるし、雇用期間満了後、**店舗スタッフが「やめさせないで!」**と言ってくるんですよ。知的障害者には、周囲をそんな気持ちにさせる雰囲気の方が多いですね。」

- 知的障害者を雇用する際のポイントは？

中村さん「**気長に見てあげる**ことですね。60才が定年ならば、20才の人なら40年も働いていただけるんですよ! だから、**業務に慣れるまでの数年間なんて、短いもの**です。」

- スタッフの皆さんのチームワークも良さそうですね。

中村さん「弊社では、障害者のことをみんなが理解していて、特別に意識してません。スタッフ確保に苦労している経営者仲間には障害者雇用を勧めています。機会があれば、障害者の親御さんともお話ししてみたいですね。」



実習で作ったハンバーガーは、体験後、全員でいただきました。

この「体験実習会」の様子は、**2月23日(月)の「報道センター-NBC」**(午後6時16分~)で放送されます。是非、ご覧ください。

企業と障害者の連携事例紹介紙「**長崎県CSR通信**」 発行部数:2129部

発行 長崎県障害福祉課(担当:村井) 平成21年2月20日(毎週金曜発行) 電話**095-895-2454**

バックナンバーはこちら <http://www.pref.nagasaki.jp/syogai/koutin/CSR.html>

18万部を突破した、村上龍氏推薦の「日本でいちばん大切にしたい会社」(坂本光司氏著;あさ出版)でとりあげられた日本理化学工業(障害者雇用率7割!)でも、知的障害者雇用にあたっては、社員の方の力が大きかったそうです。障害者を戦力にしている企業の情報は、今後ご紹介したいと思います。

これが新しい社会貢献の形。長崎県CSR通信 vol.25

CSRとは「企業の社会的責任」のことで、消費者が企業を選ぶ基準の1つです。

おいしいパン屋でできたパンを、障害者施設が販売

障害福祉サービス事業所ドンキーワールド(諫早市八天町)では、回転焼きの販売、のぼり・チラシの印刷に加え、パンの販売もしています。販売しているパンは、**パン工房ビス**(諫早市高来町)さんのパン。

パンに込める思いなどを、パン工房ビスの**吉田弘伸**代表と、ドンキーワールドの**川田俊明**店長にうかがいました。

施設側

- 施設ではパンは作っていないんですね。

川田さん「はい、ビスさんのパンを仕入れ販売しています。毎朝30分かけて仕入れに行くほどおいしいんです。」

- パンを作っている施設が多いなかで、珍しいですね。

川田さん「私達には、こんなにおいしいパンは作れないので、売ることに特化しています。1日あたり200個売れるので利益も出るし、他の活動にも時間を使えるので、障害のある利用者もいきいきしていますよ。」

- どんなところで販売していますか？

川田さん「市役所や病院、学校、企業など各所で販売しています。毎週水曜日の午後は**三菱ふそうトラック・バス九州ふそう諫早支店**(諫早市小船越町)さんで販売していますが、社内放送で案内させてもらっています。常連の社員さんもでき、『仕事時間中は、社外に買いに行けないので、とても便利。』と喜んでいただいています。」

- ビスさんとは、うまく役割分担できているんですね。

川田さん「ビスさんはスーパーなどにも卸していますが、いちごジャムパンなど、うちだけにしか卸していない商品もあるんです。販売を担当する障害のある方には、1回は吉田代表と顔合わせする機会を設けて、どんな気持ちで作っているか知ってもらい、もっと販売力を高めたい。今の倍以上の1日500個売るのが目標です！」



この日は、三菱ふそうさんでの販売日。楽しいやり取りが繰り返されました

企業側

吉田さん「ビスのパンの特徴は、太陽卵、海洋塩、浄化したとどろきの滝の水など、いい材料を使っている点です。添加物は一切使いません。生地は25%が卵で、普通のパンより高い割合なので、1日経ってもソフト感があります。原価率は高いですが、売れ残りを極力なくすことで採算はとれますよ。」

施設の皆さんが一生懸命売ってくれるので、私もそれに応えよう！と頑張れるんです。障害者だから、という意識はありません。

昨年、施設の皆さんと飲んで、腹を割って話し、『頑張ろう！』と誓い合いました。」

施設への発注をご検討の方へ**法人税の優遇措置**のご案内

障害者施設との取引額に応じ**法人税等の優遇措置**があります。詳しくは、<http://www.pref.nagasaki.jp/kurashi/pdf/zeiseikaisei.pdf>

障害者施設が販売する**商品・サービス**はこんなにあります。詳しくは、<http://www.pref.nagasaki.jp/syougai/koutin/list.pdf>

【今週の**社会貢献事例**】

障害者の施設で、パン屋の**おいしいパン**を販売をしている。

貴社でも、昼食時や夕方に、パンの販売に来てもらっては**いかが？**

企業と障害者の連携事例紹介紙「**長崎県CSR通信**」 発行部数:2130部

発行 長崎県障害福祉課(担当:村井) 平成21年2月27日(毎週金曜発行) 電話**095-895-2454**

バックナンバーはこちら <http://www.pref.nagasaki.jp/syougai/koutin/CSR.html>

アエル諫早中央商店街にあるドンキーワールドは、職員の方も利用者の方も個性派揃い。回転焼きの「**ハムタロー**」は超おすすめ！！ 22号でご紹介した麦わら帽子の「**だいちっ粉**」が3月3日(火)午後6時28分~NCC「**スーパーJチャンネルながさき**」で放送される予定です。是非、ご覧ください！

これが新しい社会貢献の形。長崎県CSR通信 vol.26

CSRとは「企業の社会的責任」のことで、消費者が企業を選ぶ基準の1つです。

運動公園の空き缶を、知的障害者の施設が回収

企業や学校では、空き缶などの廃棄物の処理にお困りのところも多いようです。県立総合運動公園を管理する**長崎県公園緑地協会**(諫早市宇都町)では、知的障害者通所授産施設**つくし学園**(諫早市小船越町)に、場内から出る空き缶やペットボトルの回収作業を委託しています。

今回は、長崎県公園緑地協会の**竹添圭子**主査と、つくし学園の**貝田和美**支援員にお話をうかがいました。



新しいゴミ袋をセットし終わったところ。楽しそうに作業されていたのが印象的でした。

- 空き缶の処分で困っていたそうですね。

竹添さん「以前は他の回収業者をお願いしていたんですが景気の悪化で撤退されてしまったんです。公園内には各所に自動販売機があるので、出る空き缶も多く、回収していただけたところを探していたところでした。」

- 施設に回収を委託したきっかけは？

竹添さん「つくし学園さんには、当協会でもシイタケやお菓子などを販売していただいていたんです。職員の評判もよく、信頼関係があったので、空き缶の回収について、無理を承知でお願いしたところ、快くお受けいただきました。」

- 回収作業に不安はありませんでしたか？

竹添さん「全くありませんでした。皆さんは感じが良く、挨拶も元気にされ、頑張られる方だし、職員の方とペアで回収されるので、安心してお任せしていますよ。」

- 他の取り引きの可能性はいかがでしょうか？

竹添さん「他にお願いできる業務がないか、洗い出しているところなんです。金銭面などの条件が合えば、今後も発注してみたいですね。」

発注側

施設側

貝田さん「障害のある方には、ゴミ箱から空き缶を回収した後、ゴミ袋をセットする、回収した空き缶を施設で洗浄する、などの作業をしてもらっています。」

総合運動公園以外にも、諫早市内の葬儀場や病院などにも回収に行っています。

去年、廃材価格が急に下落し、採算的には楽ではありませんが、価格が戻ったら障害者の収入に反映するので、今は辛抱の時ですね。」

施設への発注をご検討の方へ**法人税の優遇措置**のご案内

障害者施設との取引額に応じ**法人税等の優遇措置**があります。詳しくは、<http://www.pref.nagasaki.jp/kurashi/pdf/zeiseikaisei.pdf>

障害者施設が販売する**商品・サービス**はこんなにあります。詳しくは、<http://www.pref.nagasaki.jp/syougai/koutin/list.pdf>

【今週の**社会貢献事例**】

障害者の施設が、公園から出る空き缶の回収・処分をしている。

空き缶やペットボトルの処分に困っていたら、施設に相談してみてもいかがでしょうか？

企業と障害者の連携事例紹介紙「**長崎県CSR通信**」 発行部数:2127部

発行 長崎県障害福祉課(担当:村井) 平成21年3月6日(毎週金曜発行) 電話**095-895-2454**

バックナンバーはこちら <http://www.pref.nagasaki.jp/syougai/koutin/CSR.html>

つくし学園と併設している「ライフステーションつくし」では、新聞などでよく宣伝しているお茶の石けんについてくる泡立てネットを作ったり、ネット通販をしている古本屋から本の梱包作業を受託したりされているんです。全国的に知られている商品が、こんな身近で作られていたのでビックリでした。

これが新しい社会貢献の形。長崎県CSR通信 vol.27

CSRとは「企業の社会的責任」のことで、消費者が企業を選ぶ基準の1つです。

九州の障害者が作った商品を、ロケ地情報誌で全国にPR

障害者が作った商品がもっと売れるようにしたい。その方法の1つは、市場を広げ全国で販売することだと考えています。

そんななか、**地域活性プランニング**(東京都港区)さまが発行しているロケ地情報誌「**ロケーションジャパン**」(<http://chiikikassei.co.jp/Lj/>) (以下「LJ」)と九州5県(福岡、佐賀、大分、熊本、長崎)がタイアップして、障害者が作った商品を全国にPRする企画が、4月号(3月14日発売)から始まることになりました。

今回は、LJ編集部の**田淵智子**さんにお話を伺いました。

- LJとは、どんな雑誌なんですか？

田淵さん「映画やドラマ、CM撮影のロケ地を紹介している

日本で唯一の雑誌です。ロケ地を探している制作者の方々、ロケーション誘致で地域を活性化しようとする行政関係者、そして、撮影に使われた場所やお店の情報を求めている映画ファンなどにお読みいただいています。2006年12月号では、長崎の観光名所も特集したんですよ。」

- どうして、障害者が作った商品を掲載していただけたんですか？

田淵さん「弊社の代表の藤崎が、九州の障害者の商品を販売促進している行政の担当者からご相談いただいたんです。

弊誌では、『プレゼントコーナー』で地域の特産品を掲載していますので、地域色豊かな商品なら趣旨に合うと思い、お受けしました。」

- 障害者が作った商品を見た感想は？

田淵さん「障害のある方が作った商品は、デパートの催事場で見たことあったな、という程度で、ポーチなどの手芸品が多いというイメージが強かったんです。でも、実際に商品を見て、焼き菓子などのスイーツが多いのは意外でしたし、想像以上に良い商品が多くて、ビックリしました。」

- 6号(1年間)にわたり、無料で誌面を提供していただけたとうかがっています。

田淵さん「そうです。この企画をきっかけに障害のある方の収入が増えると、私たち嬉しいですね。プレゼントコーナー以外にも、撮影の裏話など楽しめる内容が盛りだくさんなので、映画ファンの方もそうでない方も、一度読んでいただきたいです！」



ロケーションジャパンは奇数月の15日発売、紀伊國屋書店などで購入できます。4月号には、綾瀬はるかさんのインタビューも。



4月号では、ブルーベリージャムとお米などの詰め合わせをプレゼント！

企業と障害者の連携事例紹介紙「長崎県CSR通信」 発行部数:2125部

発行 長崎県障害福祉課(担当:村井) 平成21年3月13日(毎週金曜発行) 電話**095-895-2454**

バックナンバーはこちら <http://www.pref.nagasaki.jp/syogai/koutin/CSR.html>

地域活性のエキスパートの藤崎社長がLJを発行することにしたのは、「映画の撮影場所は、地域活性の原動力になる。なぜなら、撮影スタッフは大人数で泊まりがけで来る、『ローマの休日』のスペイン広場を始め、ロケ地は観光名所になる」からだそうです。藤崎社長のご厚意を活かしたいと思います。

これが新しい社会貢献の形。長崎県CSR通信 vol.28

CSRとは「企業の社会的責任」のことで、消費者が企業を選ぶ基準の1つです。

障害者の施設が、運送会社からメール便の配達を受託

ヤマト運輸(東京都中央区)の元会長の故**小倉昌男氏**が、障害者福祉の向上のために個人資産の大半を寄付して設立された**ヤマト福祉財団**は、ヤマト運輸のメール便配達業務を障害者に新たな仕事の場としてあっせんする「障がい者のクロネコメール便配達業務」を実施されています。

今回は、ヤマト運輸長崎南メール便エリア**山田正敏**支店長と、長崎で最初にメール便業務を始めた**コリアンダーの家**(長崎市現川町)の**馬場隆幸**管理者にうかがいました。

- メール便の配達は、いつから始めたんですか？

馬場さん「平成16年12月頃から始めました。

当時はハーブ栽培と陶器作りをしていましたが、このままでは障害者の収入を大幅に増やすことはできないと考え、メール便に挑戦しようと決意しました。」

- 障害のある方はどんな仕事をされるんですか？

馬場さん「主にメール便の配達です。メール便を担当して4年以上経つ松竹さんは、**配達するお宅もほとんど覚え**メール便を配達順に並べる配達前の準備もでき、メール便のプロですよ。」

- 苦労するのは、どんなところですか？

馬場さん「障害者に教える前に、支援員が住所を覚えて配達できるようにならないといけないんですが、最低でも3ヶ月はかかるんです。今は1日に300冊配達できますがメール便を始めた当初は1日に15冊程度と苦労しました。」

- メール便事業で、障害者の収入も増えているようですね。

馬場さん「収入も増えたとし、車が入らないなど配達が難しい地区を担当している分、ヤマト運輸さんにも喜んでもらえ、とてもいい仕事だと思います。」

施設側



一軒ごとに配達するのは、かなりの重労働ですが、黙々と配達されていました。

発注側

山田さん「メール便の話を初めて聞いたときは『本当に配達できるのかな?』と正直、半信半疑でした。」

でも、コリアンダーの家さんは配達の実績を増やしていたし、メール便の配達員の確保が難しいなか、『配達エリアをもっと増やしたい!』とやる気をアピールされていたので信頼感が増していきました。

メール便には、宅配便とは違った難しさもありますが、頑張ってくださいから本当に助かっています。」

施設への発注をご検討の方へ法人税の優遇措置のご案内

障害者施設との取引額に応じ**法人税等の優遇措置**があります。詳しくは、<http://www.pref.nagasaki.jp/kurashi/pdf/zeiseikaisei.pdf>

障害者施設が販売する**商品・サービス**はこんなにあります。詳しくは、<http://www.pref.nagasaki.jp/syougai/koutin/list.pdf>

【今週の社会貢献事例】

障害者の施設が、メール便の配達業務を受託している。

貴社の業務を委託することを考えていらっしゃるならば、障害福祉施設に相談されてみては？

企業と障害者の連携事例紹介紙「**長崎県CSR通信**」 発行部数:2121部

発行 長崎県障害福祉課(担当:村井) 平成21年3月19日(毎週金曜発行) 電話**095-895-2454**

バックナンバーはこちら <http://www.pref.nagasaki.jp/syougai/koutin/CSR.html>

20号で紹介した平山友愛園さまの弁当を、長崎市内のある幼稚園に新たに納めさせていただくことになったそうです! 相談していただくことで、新たな取引引きが始まりました。本当にありがとうございました!

これが新しい社会貢献の形。長崎県CSR通信 vol.29

CSRとは「企業の社会的責任」のことで、消費者が企業を選ぶ基準の1つです。

大手スーパーの仕入れ担当者が、障害者の商品にアドバイス

障害者が作る商品がもっと売れるようにするために、主婦や学生など消費者の皆さんに意見をうかがい、商品の改良に役立てていました。

そんな時、**まるたか生鮮市場**を展開されている**丸高商事**(諫早市幸町)さまが、売れる商品作りのアドバイスをしてくださることになりました。

今回はご協力くださった丸高商事営業統括本部**具島誠**部長にお話をうかがいました。

企業側

- 今回、アドバイスにご協力していただいた理由は？

具島さん「弊社の代表は諫早商工会議所の会頭でもあり、福祉分野には関心を持っていたからです。店舗では**知的障害者の施設で作られたお茶など**を取り扱っていることもあり、お手伝いさせていただこうと思いました。」

- 実際に商品を見て、どう思いましたか？

具島さん「産直販売所など、場所次第では売れるのではないのでしょうか？アドバイスをした商品のなかでは、生しいたけと手づくり石けんは、弊社の仕入れ担当者が興味を示していましたよ。」

- どんな点が、改良が必要でしょうか？

具島さん「手づくりの商品が多いので、それをもっと強調する方がいいですね。ただ、商品名を表記するだけなのはもったいないな、と思います。」

- 今後ご協力いただけると嬉しいです。

具島さん「時間などの条件さえ合えば、店舗の敷地内で販売場所を提供することはできるかもしれません。」



丸高商事本社で、食品や日用品などのご担当の方にアドバイスしていただきました。本当にありがとうございました！

施設職員の声

福祉とは関係のない一般の商品を取り扱うプロの意見は、とても参考になった。

手作業で大量生産ができない場合、逆に「1日限定食」と長所に代える方法は、試してみようと思う。



アドバイス前に、商品をじっくり吟味。

施設への発注をご検討の方へ**法人税の優遇措置**のご案内

障害者施設との取引額に応じ**法人税等の優遇措置**があります。詳しくは、<http://www.pref.nagasaki.jp/kurashi/pdf/zeiseikaisei.pdf>

障害者施設が販売する**商品・サービス**はこんなにあります。詳しくは、<http://www.pref.nagasaki.jp/syogai/koutin/list.pdf>

企業と障害者の連携事例紹介紙「**長崎県CSR通信**」 発行部数：2120部

発行 長崎県障害福祉課(担当:村井) 平成21年3月27日(毎週金曜発行) 電話**095-895-2454**

バックナンバーはこちら <http://www.pref.nagasaki.jp/syogai/koutin/CSR.html>

いつも「長崎県CSR通信」をご覧いただき、ありがとうございます。もっと皆様に価値ある情報を提供できるように、1ヶ月ほどのお休みをいただいてこの通信をリニューアルすることにしました。今後もお読みくださるよう、よろしくお願いいたします！

企業と障害者の取り引き事例を紹介する 長崎県CSR通信 ~ 第30号 ~

CSRとは「企業の社会的責任」のことで、消費者が企業を選ぶ基準の1つです。

「チャレンジド・ショップはあと屋」がベルナード観光通にオープン

ベルナード観光通り(長崎市万屋町)に「チャレンジド・ショップはあと屋」が今月15日にオープンしました。このお店は、長崎市内の障害福祉施設が会員になっている長崎市障害児・者施設協議会に長崎市が運営を委託しており、田上富久長崎市長を始め、長崎市の全面的なバックアップで実現したそうです。

今回は、ベルナード観光通りの会長をされている浜せんハヤシダの林田光史代表と長崎市障害児・者施設協議会の竹内一会長にインタビューしました。

- 「はあと屋」を開設した目的は？

竹内さん「障害者が作った商品の売り上げを増やすことで障害者の収入を上げるのはもちろん、地域の皆さんに障害者への理解を深めてもらうことや、障害者の職場実習先として活用することも目的としています。」



- 商店街の皆さんの反応は？

竹内さん「組合の会合の時に、ある店舗の方から障害者雇用についてご相談を受けました。今までは、障害者を雇用するための情報をお持ちでなかったみたいで大変喜んでいただいたんですよ。商店街に出店することで、市民の皆さんと障害者や行政との橋渡しができるのではないかと期待しています。」

- どんなお店にしていきたいですか？

竹内さん「いい商品をご用意して、お客様に喜んでいただけるようにしたいですね。そのために、お客様からのご意見を施設側へ積極的に伝えて、商品の改良や新商品の開発に取り組もうと考えています。」

パンや野菜などの食料品から雑貨まで品揃え豊富。私は生キャラメルをお土産に買いました

林田さん「当店では障害者施設の松浦作業所さんで作られている凧(長崎県CSR通信16号に掲載)を販売しているご縁もあったので、『はあと屋』が商店街の仲間になることは、大歓迎でしたよ(笑)。」



病院に行かれる年輩の方は朝早くから『はあと屋』に立ち寄りされているようですし、市民の理解が深まればいいですね。」

障害者施設への発注をご検討の方へお役立ち情報！

その1 障害者施設との取引額に応じ法人税等の優遇措置があります。詳しくはこちら <http://www.pref.nagasaki.jp/kurashi/pdf/zeiseikaisei.pdf>

その2 読むだけでも役に立つ「長崎県CSR通信」バックナンバーは、こちら <http://www.pref.nagasaki.jp/syogai/koutin/CSR.html>

本FAXの送付を希望されない方は、大変お手数ですが、そのままご返信くださるようお願いいたします。



企業と障害者の取引事例紹介紙「長崎県CSR通信」 発行部数:2494部 電話095-895-2454
発行 長崎県障害福祉課(担当:村井。ご相談大歓迎!) 平成21年5月22日(毎月第2・第4金曜発行)

ご無沙汰しています。この通信をリニューアルするためにニュースレターコンサルタント(こんな職業があるんですね~興味のある方にはご紹介します)の方に指導を受けました。担当者の似顔絵を入れるか悩みましたが、気軽にお問い合わせいただけるようにと決断。お役に立てる情報をお送りしていきますね。